

令和8年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

小学校 家庭科

改善の重点

- ① 題材を通して育成する資質・能力を明確にし、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を設定した題材の指導と評価の計画を作成すること。
- ② 日常生活の中から問題を見いだして児童が解決したいと願う課題を設定し、解決方法の検討と計画、課題解決に向けた実践活動を通じて、実践活動の評価・改善をする問題解決的な学習を効果的に取り入れること。

1 設定理由

家庭科において資質・能力を確実に育成するためには、2学年間を見通した上で、題材ごとの目標を明確にし「指導と評価の一体化」を図ることが必要である。指導計画の作成に当たっては、児童・学校・地域の実態を十分に考慮し、調和のとれた計画となるよう工夫する。あわせて、学習の成果を的確に捉えるため、評価の場面や方法を計画内に明記することが求められる。

小学校学習指導要領第2章第8節家庭の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」には、「日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす」問題解決的な学習過程の重要性が強調されている。児童が自らの日常生活の中から「解決したい」と願う切実な課題を見いだすことは、主体的・対話的で深い学びの原動力となる。授業においては、実践的・体験的な活動を通して知識及び技能を確実に身に付けるとともに、それらを「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構想」等の視点で相互に関連付け、日常生活で活用できるように指導する。

このような観点を踏まえ、児童の発達段階や家庭科の特質を踏まえた教育活動を展開し、児童が「学んだからこそ生活がよりよくなった」と実感できる授業改善に取り組むこととする。

2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 「改善の重点①」については、2学年間を見通し、題材ごとに「どのような資質・能力を育成するのか」を具体化し、題材全体を通した目標を設定すること。それを踏まえた上で、1単位時間ごとの目標を設定し、児童と目指すゴールを共有すること。また、評価計画については、内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法についても具体的に明記すること。学習指導案には「C努力を要する状況」の児童に対する手立てを記載すること。
- ② 「改善の重点②」については、「新大分スタンダード R8 改訂版」を踏まえながら、日常生活の中から問題を見いだして児童が解決したいと願う、必要感のある課題を設定すること。さらに、課題の解決方法の検討と計画、課題解決に向けた実践活動、実践活動の評価・改善など一連の学習過程を充実させるとともに、1人1台端末を効果的に活用した授業を構想すること。

(2) 参考とすべき資料

- ① 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）
- ② 早わかり！単元計画の作成手順（大分県教育庁義務教育課 Web サイト）